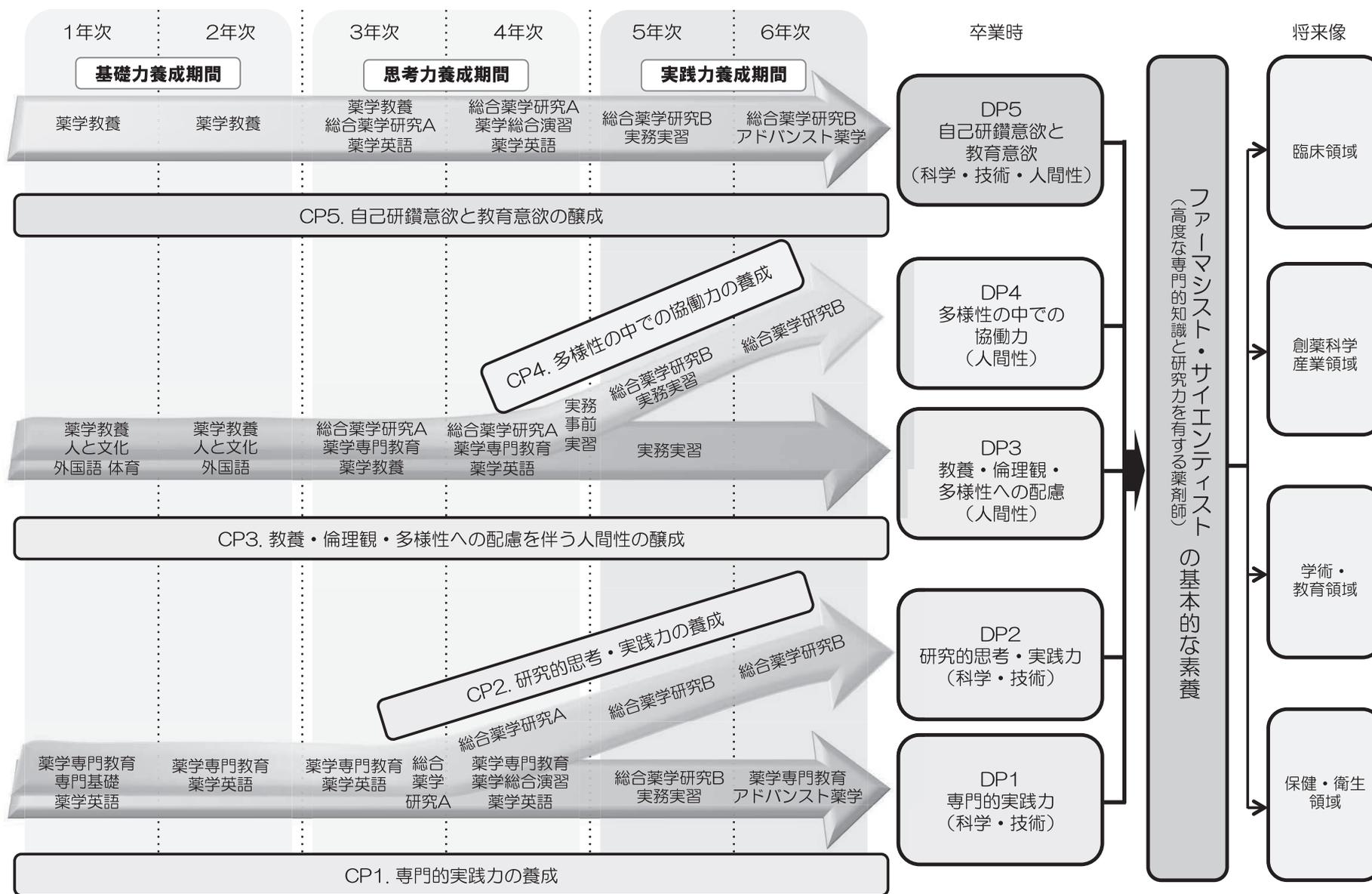


# カリキュラムマップ



# 京都薬科大学カリキュラム マップ

京都薬科大学では、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）である「ファーマシスト・サイエンティスト」を育成するため、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）を定め、体系的なカリキュラムを構成しています。また、薬学教育モデル・コアカリキュラムでは「薬剤師として求められる基本的な資質（10の資質）」が挙げられています。

上記に従い、京都薬科大学を卒業する時に身に付けておくべき能力として「京都薬科大学コンピテンシー」を定めました。これは、10の資質をより具体的に表現したもので、スタンダードとエレメントは実践できる行動を示しています。これらのコンピテンシーを達成するために授業科目を編成し、カリキュラムマップを作成しました。すなわち、皆さんが6年間で各科目を段階的に学習し、卒業時にファーマシスト・サイエンティストとして何が出来るようになるかを知ることができます。

「総合薬学研究B」のうち、探究薬学コースのユニットについては、総合薬学研究B(T)として表記する。

「総合薬学研究B」のうち、実践薬学コースのユニットについては、地域医療ユニット:総合薬学研究B(JC)

医薬開発ユニット:総合薬学研究B(JI)

薬物療法ユニット:総合薬学研究B(JY)として表記する。

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目						
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
DP3	1. 薬剤師としての この構え  医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の職務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳に関する認識と倫理観に基づき、医療の担い手としての使命感と責任感を発揮する。	① 医療と薬学の歴史を理解した上で、薬学と薬剤師の現在ならびに将来における役割について考察する。	・早期体験学習 ・医療の担い手としてのこの構えA			・医療薬学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学	
			② 国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の使命を理解する。	・早期体験学習 ・医療の担い手としてのこの構えA	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療薬学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学		
			③ 生命・医療に関する倫理観を身につけ、それに従い主体的かつ責任を持って行動する。	・早期体験学習 ・医療の担い手としてのこの構えA	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療の担い手としてのこの構えC ・医療薬学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学		
DP3	2. 患者・生活者本位の視点  患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立ち、これらの人々の安全と利益を最優先する。	(2) 医療の担い手としての薬剤師の倫理的・法的義務を果たす。	① 薬剤師の遵守すべき倫理規範を理解し、ふさわしい態度で行動する。	・医療の担い手としてのこの構えA ・早期体験学習	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療の担い手としてのこの構えC	・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学	
			② 薬剤師の遵守すべき法令・規則等を理解し、ふさわしい態度で行動する。	・医療の担い手としてのこの構えA	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療の担い手としてのこの構えC ・調剤学 ・地域医療学B ・医療薬学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・日本薬局方 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学		
			③ 患者・生活者本位の視点から、これらの人々の安全・利益を優先した医療を考える。	① 患者・生活者の基本的権利・自己決定権について理解し、配慮する。	・医療の担い手としてのこの構えA ・早期体験学習	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療の担い手としてのこの構えC	・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
			② 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を理解し、行動する。	・医療の担い手としてのこの構えA	・医療の担い手としてのこの構えB	・医療の担い手としてのこの構えC ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学		
DP3 DP4	3. コミュニケーション能力  患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	(1) 患者・生活者・他職種との対話を通じて、相手の心理・立場・環境を理解する。	① 患者・生活者・他職種と積極的に対話する。		・医療の担い手としてのこの構えB		・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JY)	・総合薬学研究B(JC, JY) ・アドバンスト薬学	
			② 相手の立場・文化・習慣を尊重し、対話する相手の心理状態や価値観を受けとめる。	・基礎演習 ・英語1A ・英語1B ・体育実技	・医療の担い手としてのこの構えB ・英語2A		・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学	
			(2) 患者・生活者・他職種に対して、適切な手段により意思疎通を図る。	① 思いやりのあるコミュニケーションを通じて、他者との信頼関係を築く。	・基礎演習 ・英語1A ・英語1B ・体育実技	・医療の担い手としてのこの構えB ・英語2A		・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
			② 患者・生活者に対して、言語的・非言語的医療コミュニケーション技術を用いて応対する。		・医療の担い手としてのこの構えB		・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JY)	・総合薬学研究B(JC, JY) ・アドバンスト薬学	
		③ 他職種に対して、自分の考えや感情を伝えるとともに、相手の意見を聞きながら協力的に討議する。		・医療の担い手としてのこの構えB		・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JY)	・総合薬学研究B(JC, JY) ・アドバンスト薬学		

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目					
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
DP4	4. チーム医療への参画  医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	(1) 医療に携わる他職種と情報を共有する。	① チーム医療における他職種の役割を理解し、連携する。	・医療の担い手としてのこころ構えA	・医療の担い手としてのこころ構えB		・医療薬学A ・医療薬学B ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・DDS概論(選択) ・栄養管理概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
			② 医師・看護師等の他職種と、患者状態・治療経過や服薬状況の情報を共有する。		・医療の担い手としてのこころ構えB		・医療薬学A ・医療薬学B ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・DDS概論(選択) ・栄養管理概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
			③ 他の医療スタッフ・他職種に対して、医療情報や医薬品情報を適切な方法・手段で提供する。		・医療の担い手としてのこころ構えB		・医療薬学A ・医療薬学B ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・DDS概論(選択) ・栄養管理概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
		(2) 医療機関の医療チームにおいて、薬剤師として主体的に薬物療法に関する能力を活かす。	① 他の薬剤師や医師・看護師等の医療スタッフと連携し、患者ごとに適切な薬物療法を提案する。	・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A			・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・医療薬学B ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・DDS概論(選択) ・栄養管理概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・分子病態学概論A(選択) ・分子病態学概論B(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
			② 多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム等)の活動に貢献する。	・栄養化学 ・医療の担い手としてのこころ構えB	・感染症治療学		・病態診断学B ・医療薬学B ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・DDS概論(選択) ・栄養管理概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
			③ 医療安全(リスクマネジメント)に貢献する。				・臨床情報学 ・医療薬学A ・薬事関連法規 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
		(3) 地域医療を担う職種間で連携する。	① 地域医療を担う職種とともに活動し、チームリーダーまたはチームの一員としての役割を果たす。				・地域医療学A ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・地域医療連携概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目					
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
DP1 DP2	5. 基礎的な科学力	(1) 医薬品・化学物質等に関する基本的知識を基に、それらを科学的に検証できる。	① 医薬品・化学物質等の特性を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化学A</li> <li>有機化学B</li> <li>物理化学A</li> <li>物理化学B</li> <li>基礎化学</li> <li>基礎物理学A</li> <li>基礎物理学B</li> <li>分析化学</li> <li>基礎科学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化学C</li> <li>有機化学D</li> <li>生体分析化学</li> <li>機器分析学A</li> <li>機器分析学B</li> <li>分析化学実習</li> <li>機器分析学実習</li> <li>物理化学実習</li> <li>有機化学実習</li> <li>栄養化学</li> <li>薬理学A</li> <li>薬理学B</li> <li>薬理学C</li> <li>薬理学A</li> <li>薬理学B</li> <li>薬物動態学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬品合成化学A</li> <li>薬品合成化学B</li> <li>放射薬学</li> <li>機器分析学実習</li> <li>薬理学実習</li> <li>天然医薬品学実習</li> <li>薬理学実習</li> <li>薬物動態学実習</li> <li>微生物学・免疫学実習</li> <li>天然医薬品学A</li> <li>天然医薬品学B</li> <li>薬理学C</li> <li>感染症治療学</li> <li>薬理学B</li> <li>テーラーメイド薬物治療学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調剤学</li> <li>薬学総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本薬局方</li> <li>PK-PD解析概論</li> <li>総合薬学研究B(JI)</li> <li>アドバンスト薬学</li> <li>分子薬品化学概論(選択)</li> </ul>
			② 医薬品・化学物質等の特性についての科学的検証方法を提案できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析化学</li> <li>基礎科学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体分析化学</li> <li>分析化学実習</li> <li>機器分析学実習</li> <li>物理化学実習</li> <li>栄養化学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究A</li> <li>栄養化学実習</li> <li>天然医薬品学実習</li> <li>微生物学・免疫学実習</li> <li>天然医薬品学B</li> <li>臨床統計開発論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究A</li> <li>医薬開発論</li> <li>分子・生体モデリングと情報処理</li> <li>薬学総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>PK-PD解析概論</li> <li>先端臨床薬学概論(選択)</li> <li>総合薬学研究B(JI)</li> <li>アドバンスト薬学</li> </ul>
		(2) 生体に関する基本的知識を基に、それらを科学的に検証できる。	① 生体の機能を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学</li> <li>解剖学</li> <li>生理学A</li> <li>生化学A</li> <li>健康科学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生化学実習</li> <li>解剖学・生理学実習</li> <li>生理学B</li> <li>生化学B</li> <li>細胞生物学</li> <li>免疫学</li> <li>感染症学</li> <li>薬理学A</li> <li>薬物動態学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬理学実習</li> <li>薬物動態学実習</li> <li>腫瘍細胞生物学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(JY)</li> <li>アドバンスト薬学</li> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>
			② 生体の機能についての科学的検証方法を提案できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎科学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生化学実習</li> <li>解剖学・生理学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬理学実習</li> <li>薬物動態学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学総合演習</li> <li>総合薬学研究A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学探究概論(選択)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> <li>アドバンスト薬学</li> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>
	生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	(3) 環境に関する基本的知識を基に、それらを科学的に検証できる。	① 環境の特性を説明できる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生学B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学総合演習</li> <li>総合薬学研究A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分子病態学概論A(選択)</li> <li>アドバンスト薬学</li> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>
			② 環境の特性についての科学的検証方法を提案できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎科学実習</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生学実習</li> <li>公衆衛生学B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学総合演習</li> <li>総合薬学研究A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドバンスト薬学</li> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>
		(4) 生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響に関する基本的知識を基に、それらの連関を科学的に検証できる。	① 生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析化学</li> <li>生命科学</li> <li>解剖学</li> <li>生理学A</li> <li>生化学A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体分析化学</li> <li>機器分析学A</li> <li>機器分析学B</li> <li>栄養化学</li> <li>公衆衛生学A</li> <li>生理学B</li> <li>生化学B</li> <li>細胞生物学</li> <li>免疫学</li> <li>感染症学</li> <li>薬理学A</li> <li>薬理学B</li> <li>薬物動態学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬品化学A</li> <li>放射薬学</li> <li>薬理学実習</li> <li>薬理学実習</li> <li>薬物動態学実習</li> <li>天然医薬品学A</li> <li>天然医薬品学B</li> <li>公衆衛生学B</li> <li>薬理学C</li> <li>感染症治療学</li> <li>病態薬物治療学A</li> <li>病態薬物治療学B</li> <li>病態診断学A</li> <li>腫瘍細胞生物学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品化学B</li> <li>病態薬物治療学C</li> <li>病態診断学B</li> <li>がん化学療法学</li> <li>薬学総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DDS概論(選択)</li> <li>漢方医療薬学</li> <li>分子病態学概論A(選択)</li> <li>分子病態学概論B(選択)</li> <li>PK-PD解析概論</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> <li>アドバンスト薬学</li> <li>分子薬品化学概論(選択)</li> <li>総合薬学研究B(T)</li> </ul>
			② 生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響に関する連関についての科学的検証方法を提案できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析化学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体分析化学</li> <li>栄養化学</li> <li>公衆衛生学A</li> <li>薬物動態学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究A</li> <li>薬物動態学実習</li> <li>公衆衛生学実習</li> <li>公衆衛生学B</li> <li>臨床統計開発論</li> <li>薬理学実習</li> <li>薬理学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究A</li> <li>分子・生体モデリングと情報処理</li> <li>薬学総合演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合薬学研究B(T)</li> <li>PK-PD解析概論</li> <li>先端臨床薬学概論(選択)</li> <li>総合薬学研究B(JY)</li> <li>アドバンスト薬学</li> </ul>

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目					
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
DP1	6. 薬物療法における実践的能力	(1) 患者の病態を把握する。	① 疾患の原因、病態、検査値の変動について説明できる。		・感染症学	・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A ・腫瘍細胞生物学	・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・医療薬学B ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JI)	・分子病態学概論A(選択) ・分子病態学概論B(選択) ・臨床腫瘍学概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・精神医学概論(選択) ・薬害管理概論(選択) ・総合薬学研究B (JI) ・アドバンスト薬学
			② 診療録、看護記録、検査値などから患者情報を読み取る。			・テーラーメイド薬物治療学	・病態診断学B ・がん化学療法学 ・医療薬学B ・臨床情報学 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC, JI, JY)	・薬害管理概論(選択) ・総合薬学研究B (JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
			③ 患者や家族への適切なインタビューを通じて情報を収集し、必要に応じてフィジカルアセスメントを実践する。		・医療の担い手としてのこころ構えB	・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC)	・総合薬学研究B (JC) ・アドバンスト薬学	
		(2) 個々の患者について最適な薬物療法を提案する。	① 治療に使用される薬物について説明できる。		・微生物学・免疫学実習 ・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A	・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・医療薬学A ・医療薬学B ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC, JY)	・日本薬局方 ・DDS概論(選択) ・漢方医療薬学 ・分子病態学概論A(選択) ・分子病態学概論B(選択) ・臨床腫瘍学概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・精神医学概論(選択) ・総合薬学研究B (JC, JY) ・アドバンスト薬学	
			② 患者ごとに適切な薬剤とその使用法について提案する。		・薬物動態学 ・薬剤学A	・薬物動態学実習 ・テーラーメイド薬物治療学 ・薬剤学B ・薬剤学実習	・がん化学療法学 ・医療薬学A ・医療薬学B ・実務事前学習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC)	・DDS概論(選択) ・漢方医療薬学 ・先端臨床薬学概論(選択) ・総合薬学研究B (JC) ・アドバンスト薬学
			③ 医師・看護師などの医療スタッフと適切なコミュニケーションを図りながら治療方針について協議する。		・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A	・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC, JY)	・DDS概論(選択) ・薬害管理概論(選択) ・分子病態学概論A(選択) ・分子病態学概論B(選択) ・臨床腫瘍学概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・精神医学概論(選択) ・総合薬学研究B (JC, JY) ・アドバンスト薬学	
	(3) 適切に薬剤を供給する。	① 処方監査や疑義照会など、処方せんに基づき正しく調剤する。		① 処方監査や疑義照会など、処方せんに基づき正しく調剤する。			・がん化学療法学 ・調剤学 ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習	・感染制御概論(選択) ・アドバンスト薬学
		② 製剤に関する知識を有し、医薬品を適切に管理する。		② 製剤に関する知識を有し、医薬品を適切に管理する。		・薬剤学B	・がん化学療法学 ・調剤学 ・医療薬学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習	・DDS概論(選択) ・臨床腫瘍学概論(選択) ・アドバンスト薬学
		③ 患者ごとに適切な服薬指導・情報提供を行う。		③ 患者ごとに適切な服薬指導・情報提供を行う。			・がん化学療法学 ・臨床情報学 ・調剤学 ・医療薬学B ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC)	・臨床腫瘍学概論(選択) ・総合薬学研究B (JC) ・アドバンスト薬学
		④ 薬物療法の実施に係る薬剤管理指導記録・薬歴を作成する。		④ 薬物療法の実施に係る薬剤管理指導記録・薬歴を作成する。			・臨床情報学 ・実務事前学習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B (JC)	・総合薬学研究B (JC) ・アドバンスト薬学

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目					
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
DP1	6. 薬物療法における実践的能力  薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	(4) 医療に係る最新の情報を活用する。	① 最新の医薬品情報(一次資料を含む)を収集し、薬学的管理に活用する。				・がん化学療法学 ・臨床情報学 ・実務事前学習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JY)	・総合薬学研究B(JY) ・アドバンスト薬学
			② 治療に関するガイドラインや医療制度について説明できる。			・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A	・病態薬物治療学C ・がん化学療法学 ・医療薬学B ・薬事関連法規 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC、JY)	・DDS概論(選択) ・分子病態学概論A(選択) ・分子病態学概論B(選択) ・臨床腫瘍学概論(選択) ・感染制御概論(選択) ・精神医学概論(選択) ・緩和医療概論(選択) ・先端臨床薬学概論(選択) ・総合薬学研究B(JC、JY) ・アドバンスト薬学
		(5) 患者の薬物療法を評価する。	① 薬学的管理に基づき、治療薬の有効性と安全性を評価する。	・薬物動態学 ・薬剤学A	・薬物動態学実習 ・薬剤学B ・薬剤学実習	・がん化学療法学 ・医療薬学B ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JI)	・緩和医療概論(選択) ・総合薬学研究B(JI) ・アドバンスト薬学	
			② 医師・看護師などの医療スタッフと治療経過について討議する。			・がん化学療法学 ・病態診断学B ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC、JY)	・緩和医療概論(選択) ・総合薬学研究B(JC、JY) ・アドバンスト薬学	
DP4	7. 地域の保健・医療における実践的能力  地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	(1) 地域医療に薬剤師の視点から参画する。	① 在宅医療および介護において、最適な薬物療法を提案できる。	・医療の担い手としてのこころ構えA		・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A ・医療の担い手としてのこころ構えC	・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・臨床情報学 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・緩和医療概論(選択) ・地域医療連携概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
			② 適切なプライマリケアを提案できる。	・医療の担い手としてのこころ構えA		・感染症治療学 ・病態薬物治療学A ・病態薬物治療学B ・病態診断学A ・医療の担い手としてのこころ構えC	・病態薬物治療学C ・病態診断学B ・がん化学療法学 ・地域医療学A ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・緩和医療概論(選択) ・地域医療連携概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
		(2) 地域保健に薬剤師の視点から貢献する。	① 薬物乱用防止や感染予防等の啓発活動を行う。		・医療の担い手としてのこころ構えC	・地域医療学A ・薬事関連法規 ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学	
			② 消毒や食中毒等の地域住民の衛生管理について説明できる。	・感染症学 ・公衆衛生学A	・医療の担い手としてのこころ構えC ・公衆衛生学B ・公衆衛生学実習	・地域医療学A ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学	
		③ 学校薬剤師の業務について説明できる。	・公衆衛生学A	・医療の担い手としてのこころ構えC ・公衆衛生学B ・公衆衛生学実習	・地域医療学A ・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習	・アドバンスト薬学		
		④ 災害時における地域の医療について説明できる。		・医療の担い手としてのこころ構えC	・地域医療学A ・薬学総合演習	・実務実習	・アドバンスト薬学		

ディプロマポリシー	10の資質	京都薬科大学コンピテンシー		科目					
		スタンダード	エレメント	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
DP2	8. 研究能力  薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	(1) 研究遂行のための意欲と倫理観を持つ。	① 薬学・医療における問題点を改善する意欲を持つ。	・医療の担い手としてのこころ構えA	・医療の担い手としてのこころ構えB	・医療の担い手としてのこころ構えC	・総合薬学研究A	・実務実習 ・総合薬学研究B(T)	・生命科学探究概論(選択) ・総合薬学研究B(T) ・先端臨床薬学概論(選択) ・アドバンスト薬学
			② 人権保護、生命倫理、安全管理に関する法令と指針を遵守した研究計画を立案し、研究を実施できる。	・医療の担い手としてのこころ構えA	・医療の担い手としてのこころ構えB		・総合薬学研究A ・医薬開発論 ・薬事関連法規	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・生命科学探究概論(選択) ・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
		(2) 現状における医療の問題点を見つけ、解決するための研究を立案する。	① 薬学・医療における問題、情報、研究課題を収集・整理できる。	・薬学英語1A ・薬学英語1B	・薬学英語2	・薬学英語3A ・薬学英語3B	・総合薬学研究A ・薬学英語4A ・薬学英語4B	・総合薬学研究B(T)	・生命科学探究概論(選択) ・総合薬学研究B(T) ・アドバンスト薬学
			② 科学的合理性に基づく研究計画を立案する。				・総合薬学研究A	・総合薬学研究B(T)	・生命科学探究概論(選択) ・総合薬学研究B(T) ・アドバンスト薬学
		(3) 研究を実行するとともに得られる研究データを解析する。	① 計画に基づき、知識と技能を活用して実験・調査を行い、適切にデータを記録・解析する。	・基礎科学実習 ・基礎数学A ・基礎数学B ・情報科学	・薬学統計解析学	・臨床統計開発論	・総合薬学研究A	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(T) ・PK-PP解析概論 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
			② グループディスカッションを基に実験・調査データを評価・解析する。	・基礎演習			・総合薬学研究A	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC)	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学
(4) 効果的で適切なプレゼンテーションを行い、研究成果をまとめる。	① 学会等で研究成果を正確に、かつ分かりやすく発表する。	・基礎演習 ・薬学英語1A ・薬学英語1B ・情報科学	・薬学英語2	・薬学英語3A ・薬学英語3B	・総合薬学研究A ・薬学英語4A ・薬学英語4B	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学		
② 研究成果を卒業論文で適切に、かつ明瞭に発表する。	・基礎科学実習 ・薬学英語1A ・薬学英語1B ・情報科学	・薬学英語2	・薬学英語3A ・薬学英語3B	・総合薬学研究A ・薬学英語4A ・薬学英語4B	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(T) ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学			
DP5	9. 自己研鑽  薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	(1) 医療と医薬品に関する社会的動向や知識を自ら学び続ける意欲と能力を持つ。	① 医療と医薬品における問題を抽出し、関連情報を収集し解析する。				・薬事関連法規 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・先端臨床薬学概論(選択) ・医薬品レギュラトリーサイエンス概論 ・実践医薬開発概論 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
			② 医療と医薬品に関する知識を書籍、雑誌、研究会への参加等により学ぶ。				・実務事前実習 ・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC, JI, JY)	・総合薬学研究B(JC, JI, JY) ・アドバンスト薬学
		(2) 倫理観、人間性、患者や医療チームとの信頼関係を磨き続ける意欲を持つ。	① 生涯にわたり、薬剤師の行動規範を遵守し、患者の人権を尊重する。	・医療の担い手としてのこころ構えA	・医療の担い手としてのこころ構えB	・医療の担い手としてのこころ構えC	・薬事関連法規 ・薬学総合演習	・実務実習	・アドバンスト薬学
② 患者・生活者、医療関係者および介護関係者との会話を介して相手の状況と心理を理解し、自らの意見を適切に伝える。		・医療の担い手としてのこころ構えB	・医療の担い手としてのこころ構えC	・薬学総合演習	・実務実習 ・総合薬学研究B(JC)	・緩和医療概論(選択) ・総合薬学研究B(JC) ・アドバンスト薬学			
DP5	10. 教育能力  次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	(1) 後進を育てるための意欲と態度を持つ。	(空白)		・医療の担い手としてのこころ構えC	・総合薬学研究A	・総合薬学研究B(T)	・総合薬学研究B(T)	